

研究課題番号	5RF-2101
研究課題名	温暖化・貧酸素化の適応策に資する二枚貝殻を用いた沿岸環境モニタリングと底生生物への影響評価
研究実施期間	令和3年度～令和5年度
研究機関名	筑波大学
研究代表者名	西田 梢

1. 委員の指摘及び提言概要

貝殻の化学組成から過去の環境を推定するという手法は興味深く、また、酸素同位体比から水温履歴を復元するという手法に関して一定の成果が得られている。二枚貝の貝殻からアーカイブされた過去の水環境が調べられる研究で様々な環境に適用可能である。英虞湾と東京湾の結果を適切に統合・整理し、貝の種類ごとに適切な指標を見出して実証できれば、沿岸環境モニタリングに有用な手法となりうると考えられる。

なお、貝の生存状態に対する貧酸素状態以外の交絡要因を除外することについて、十分な検討が必要と考える。また、過去の水温や溶存酸素濃度を推定する際に、水中酸素同位体比一定やマンガン濃度上昇などいくつかの仮定をおいているが、その仮定が妥当なのか確認する必要があるのではないか。

2. 採点結果

評価ランク：A